



令和7年11月発行

発行：香川医療生活協同組合
高松協同病院

発行者：院長 北原孝夫

編集：高松協同病院 広報委員会

H P : <http://t-kyodo.com/>



2025年度 高松協同病院 回復期リハビリテーション病棟 実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均
1日平均入院数	86.0	84.2	81.3	78.6	84.0	85.1	83.2
平均在院日数(日)	70.7	65.0	64.8	60.0	85.7	63.6	68.3
在宅復帰率(施設含む)	93.5%	88.6%	93.8%	92.6%	76.9%	93.3%	89.8%
単月実績指数	52.8	48.6	59.5	58.6	51.2	55.9	54.4

残念ながら本年の夏も、新型コロナウイルス感染症の集団感染が病棟で発生してしまいました。院内で新型コロナウイルス症に罹患してしまった患者で入院期間が長くなったことも影響している可能性があります。8月のみ平均在院日数も延びています。しかしこれまでの感染症への対応の経験が活かされ、集団感染自体は病床の稼働率には大きな問題も出さずに比較的短期間で収束させることができました。今年はインフルエンザの流行が早まる予想もあり、引き続き気を緩めずに感染対策を行いながら入院リハビリテーションの質を維持していく所存です。

香川医療生活協同組合理事長 高松協同病院院長 北原孝夫

第40回日本環境感染学会総会・ 学術集会参加

7/10(木)～12(土)まで横浜で開催された第40回日本環境感染学会総会・学術集会に参加しました。

各ホールで同時に複数の演題が発表されるため興味のある演題に参加する形でした。私が参加した演題は手指衛生関係、汚物室における洗浄・滅菌業務の見直し、リンクスタッフへの指導、針刺し・切創・汚染対策、外部委託職員(環境整備や給食)への感染対策教育、CDI、疥癬に対する感染対策です。

一番面白かったものは疥癬に対する感染対策ですが、皆さん角化型疥癬の皮膚の状態を知っていますでしょうか？きなこをまぶして皮膚に亀裂が入ったような感じで、かさぶたに多量のヒゼンダニがいて、手のひら大のかさぶたでは8万匹いるそうです。これを知らないと垢が溜まっていると思いこみ、手浴等の対策を行って結果的に発見が遅れるそうです。

ポイントを見逃さず、しっかりと感染対策に努めていきたいと思います。



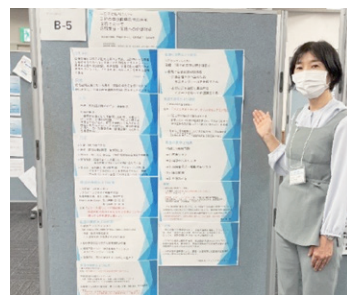
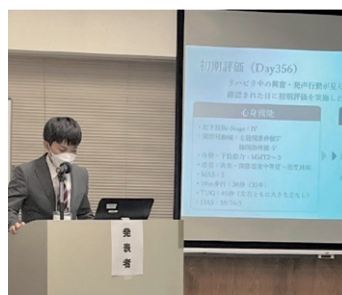
第30回神経・リハビリテーション研究会

第30回 神経・リハビリテーション研究会にて事例研究「～自宅に帰りたい～高齢の四肢麻痺患者の自宅退院に向けて家族への介護指導」を発表してきました。初めての経験で、とても緊張しましたが、良い刺激になりました。

私がポスター掲示の発表で興味深かったのは「ポジショニング褥瘡発生予防との関わり」で写真を多用しわかりやすく説明され、ベッドギャッジUP座位で両膝に枕を挟むのは筋緊張が増して、かえって姿勢が崩れやすくなることを知りました。

また記念講演では御自身の体験・人生観等語ってくれました。

2日目は各テーマに分かれ、私は「在宅看護」のシンポジウムに参加しました。あるがん患者様の在宅看護の一例が紹介されていました。その中で、散歩とは何か？という問いかけがあり、ただ歩くことが散歩ではなく、その人にとっての散歩することの意味、楽しみとは何かを考えることが大切であることを学びました。



福島への退院支援

Aさんは、仕事で香川県へ来られ、脳出血を発症された患者様。リハビリ目的で急性期病院より当院へ転院されました。入院当初は、簡単な意思疎通は可能だったが言語障害があり、自ら何かを訴えることはなく中々意思の確認がとれず、退院先や本人の希望は聞き取り困難な状況でした。リハビリが進み本人の意思を確認することができ、故郷へ帰る選択をされました。故郷のB県のC病院の回復期リハビリテーション病棟でのリハビリの継続、転医可能か相談したところ快く入院受け入れ返答をいただき、故郷へ帰る事が出来るようになりました。

転医決定後、移動方法や付き添い者、どのようにB県に帰るのかなど、大きな課題がありましたが、沢山の方の協力を得ながら、病院スタッフが付き添い、無事に遠く離れた故郷の病院へ転院することになりました。

快く転院の受入れをしてくださったC病院の皆様にも感謝です。本人、担当スタッフの想いにて実現することができ、民医連だからこそ叶えることができました。

本当にありがとうございました。



高松協同病院「第19回健康まつり」盛大に開催、地域に定着へ

清々しい秋空の下、「第19回健康まつり」を盛大に開催しました。コロナ禍より復活し2年目を迎え、地域住民のお祭りとして再度定着しつつあります。当日は雨に降られることなく、635名もの方に来場していただきました。

北原孝夫院長による開会宣言と、オープニングアクトとして披露された木太中学校ブラスバンドの迫力ある演奏で幕を開けました。会場内では、無料で血圧測定や健康・介護相談が受けられる健康チェック・相談コーナーが大人気となったほか、バザーやキッズコーナーも設置され、多くの来場者の健康増進の一助となりました。

クライマックスは、お楽しみ抽選会。1等から5等（50人！）まで景品が用意され、多くの方が景品を持って帰られ、大盛況のうちに閉幕しました。



火災避難訓練

今年度は、垂直避難にスポットを当てた階段避難車を用いた火災避難訓練を行いました。

階段避難車は自動でブレーキがかかるので、力の弱い小柄な女性でも大きな男性を簡単に階下へ降ろすことができます。

階段避難車は独歩不可の患者様を安全な場所に避難させるためにとても便利な道具なので、繰り返し訓練をすることでスタッフへ定着させていくようにします。



食事からのフレイル予防教室

近年はフレイル予防の食事についてのご要望が多く、介護予防への関心の高まりを感じています。

今年は5年ごとに改訂される日本人の食事摂取基準2025年版のメインテーマである「骨粗しょう症予防の食事について」も触れました。フレイル予防の食事と関連させてお話しすることで、多種多様な食品摂取と運動を取り入れること、毎日3食規則正しく食べることが大切だご理解いただけたと思います。

また、栄養バランスチェックシートを使用した演習では、今日食べたものをチェックすることで「何をプラスして食べると良いか」が可視化できるので、毎日の食事を楽しみながら、多種多様な食品摂取に繋がると考えています。

食事制限という言葉は過去の言葉です。食生活は、プラス思考でいきたいものです。



Instagram始めました



病院の日々をあげています。
フォローよろしく
お願いいたします。



⑧TAKAMATSU_KYODOU_HOSPITAL